

121025 ギンヤンマ

今回は「ギンヤンマ」特集です。

ギンヤンマは、我が国では北海道から沖縄まで広く分布している種で、4月末頃から11月頃まで見ることができます。

体長は80mm程度ですが、羽を広げると100mm以上もある大型のヤンマです。

主な生息環境は、平地から低山地の開放的な池や湿地、河川の淀みなどで、プールなどでも発生することがあります。

4枚の羽をバラバラに動かすことによって、空中での急停止や急旋回など極めて優れた飛行能力をもち、移動力も大きいことから、新しい水たまりなどに最初にやってくる種類のひとつだと言えましょう。

かつては大阪でも、錘(おもり)を糸の両端に付けた「ブリ」と呼ばれるものを投げ上げて、ギンヤンマを捕まえる遊びがあったそうですが、当時はたそがれ時などに本種が群れ飛んでいたのでしょうか。

写真 : ギンヤンマのヤゴ

ヤゴで1~2年過ごしてから羽化します。

写真 : ギンヤンマのヤゴの抜け殻

水面に出ているヒメガマの葉で羽化したようです。

写真 ~ : ギンヤンマの産卵

雄と雌がつながったまま産卵しています。

ほかの雄に雌を取られないように、雄はつながったままです。

写真 : ギンヤンマの産卵

こちらの雌は単独で産卵していますが、このような姿はあまり見かけないですね。

写真 : ギンヤンマ()とクロスジギンヤンマ()

近縁種ですが別種です。

でも、両種の雑種として「スジボソギンヤンマ」(俗称)と呼ばれている個体も確認されています。

では、ここでトンボに関する雑学を...

トンボの多くは、雄がなわばりをもち、雌がやってきそうな良い場所ほど、強い雄が独占します。

他の雄がなわばりに侵入しようものなら、激しく攻撃するのです。

そして、トンボの交尾はなかなか変わっています。

生殖孔は雌雄ともに腹部後端にあるのですが、雄の腹部後端は雌の頭部をしっかりと捕まえるために使っていますので、このままでは交尾することはできないのですが、ちゃんと工夫されています。

雄の腹部前端近くに「貯精嚢」があり、雄はあらかじめ自分の腹部後端をここに接して精子を蓄えておくのです。

首を雄の腹部後端に固定された雌は、自分の腹部後端を雄の腹部前端の「貯精嚢」に接して精子を受け取ります。

このときの雌雄の形が、ハート型になるのですね。

交尾が終わった雌は産卵を行うのですが、その形態は種類によってさまざまで、「ギンヤンマ」は雌雄連結してのスタイルが多く、「クロスジギンヤンマ」の雌は単独で産卵することが多いです。

また、雌が単独で産卵する場合でも、雄がその周囲を警戒飛翔している種もありますね。















